# 印刷技術を活かした若者向け土産品をカプセルトイ方式で販売へ

支援テーマ
創 経 地 農 販
海 再 承 も 雇
資 持 IT

## 課題　オリジナル商品を開発し縮小する印刷需要に対応

デジタル化社会の到来の影響は、地方の印刷会社にも大きな影響をもたらしている。

新聞、雑誌、書籍などの発行部数の減少で出版印刷も右肩下がりとなり、チラシ、DM、カタログ、パンフレットなどの広告媒体もwebやSNSに取って代わり、商業印刷も厳しい現状を強いられている。さらに書類のペーパーレス化や、オフィス機器の進化や普及も追い打ちをかけ、コピー機やプリンターのカラー化、高速化、低価格化、高品質化により少量の印刷物であれば個人・社内で対応するケースが増え、印刷発注の減少を食い止めることは難しい。

ポスター、チラシ、リーフレットなどの「商業印刷」、商品券や各種伝票、名刺、封筒などの「事務用印刷物」、刊行物、新聞、地図、カレンダーなどの「出版印刷物」、紙袋、包装紙、ラベルなどの「包装印刷物」など、印刷全般を手がける有限会社紫波印刷。激変する事業環境の影響は、ITと印刷物の連動では競合を一歩先んじる技術力をもつほか、金属、建材、布地、ガラスなどの特殊印刷でも高い技術力をもつ同社にも及んでいる。

そこで同社では、紫波町商工会の支援を受けながら、新規印刷受注の強化を進めるとともに、印刷技術を活かしたオリジナルの土産物の開発を進めることで活路を見出すことになった。

## 支援　オリジナル土産品のご当地缶バッジを開発

地域で安価で手に取りやすい土産物がほしいという声が上がっていたことから、20歳代～30歳代の若者をターゲットとし、手頃で普段使いできる物ということを条件にして、オリジナルの土産物の検討を始めた。その土地でなければ手に入らないレア感や、コレクター心をくすぐるアイテムとして、若者の間で缶バッジが注目されていることから、ご当地缶バッジに目を付けた。

デザインは「ご当地」にこだわり、紫波町のご当地キャラクター「平太くん」や、南部杜氏の里として知られる紫波町の酒蔵のロゴマークなど、地元店舗や企業のロゴマーク、地元のキャラクターなどを採用することとした。

缶バッジのデザインとして採用した地域のマスコットキャラクター

制作した缶バッジの販売方法は、卸売りではなく、ガチャガチャと呼ばれるカプセルトイ方式で販売することとした。何が当たるかわからない楽しさ、ワクワク感を含めて土産として提供する。物産館や観光施設、複合施設、店舗などにガチャガチャの機械を設置してもらうこととした。

小規模事業者持続化補助金の採択を受け、今後は岩手県内外の観光施設を中心に販路開拓を進めている。

経営者は、この取り組みで知名度の向上を図り、缶バッジ以外の商品開発、新規受注につなげていきたいと意欲をみせている。

### 支援の経過

| 期間 | 支援内容 |
|---|---|
| 2019年4月～6月 | 持続化補助金の申請・実行支援 |

### 会社概要

会社名：有限会社紫波印刷
住所：岩手県紫波郡紫波町星山字樋ノ口90-8
電話番号：019-672-3104
URL：https://print-shiwa.co.jp/
代表者名：代表取締役　熊谷徳夫
創業年：1984年
従業員数：８名
商工会名・担当者名：紫波町商工会・目黒紳悟